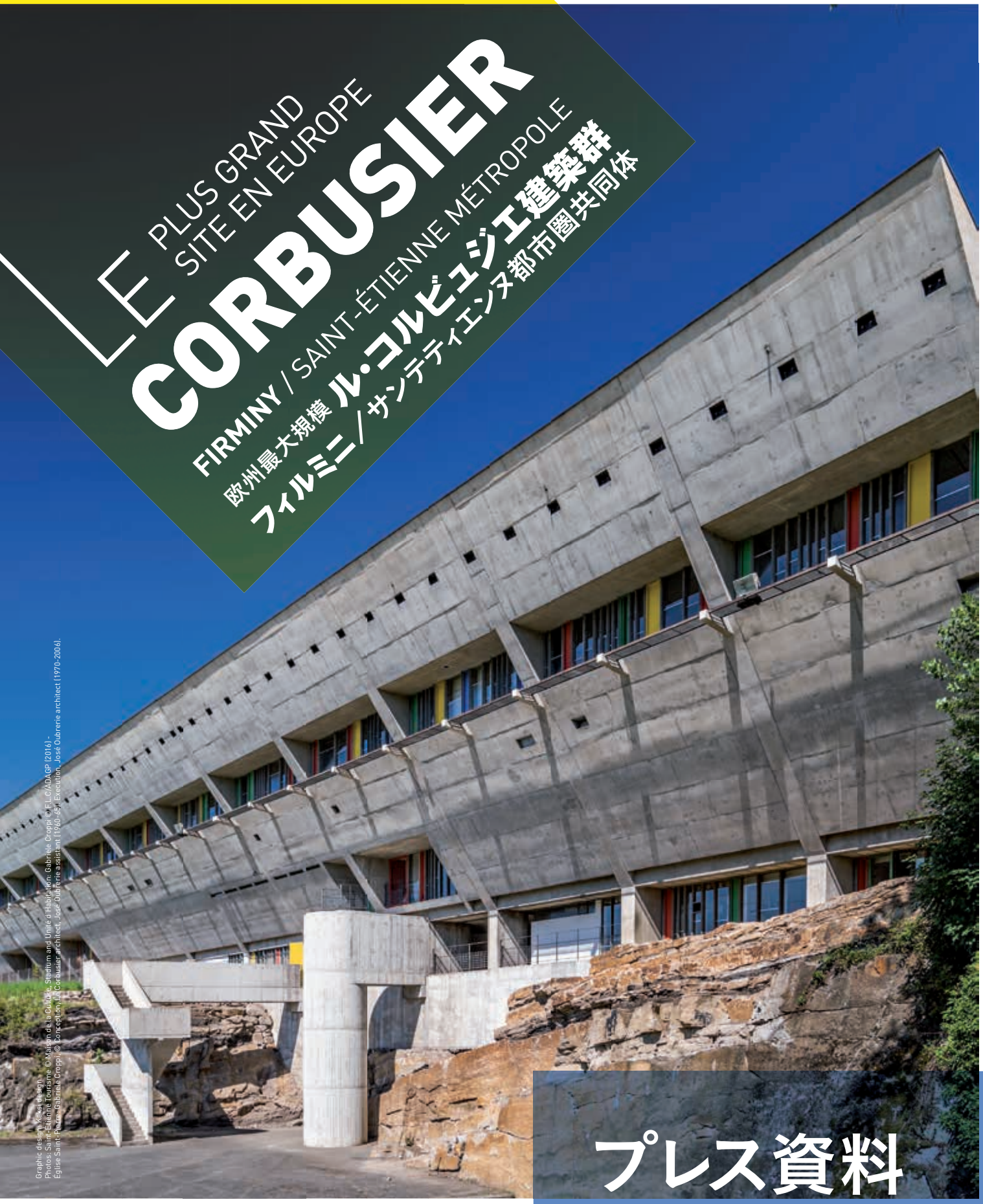
LE PLUS GRAND SITE EN EUROPE CORBUSIER

FIRMINY / SAINT-ÉTIENNE MÉTROPOLE

欧州最大規模 ル・コルビュジエ建築群

フィルミニ／サンテティエンヌ都市圏共同体



Graphic design: Kaksi design
Photos: Saint-Étienne Tourisme © Maison de la Culture, Stadium and Unité d'Habitation: Gabriele Croppi © F.L.C/ADAGP (2016) -
Église Saint-Pierre: Gabriele Croppi, © Conception, Le Corbusier architect, José Oubrerie assistant (1960-65), Execution, José Oubrerie architect (1970-2006).

プレス資料

Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture

L'Œuvre architecturale de Le Corbusier, une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne
inscrite sur la Liste du patrimoine mondial en 2016

SAINT-ETIENNE métropole

ville de Firminy
www.ville-firminy.fr

saintétienne
TOURISME & CONGRES

目次

4 **ひと目でわかる建築群**

5 **世界遺産リスト登録：**推薦ストーリー

7 フィルミニのル・コルビュジエ建築群：
欧州最大規模のル・コルビュジエ建築

12 フィルミニ=ヴェール地区、
アーバンユートピア計画の歴史

13 **革新とデザインの地における**規格外な建築群

14 プレス用素材
用語集／略歴

20 ご利用案内／プレス担当

プレス担当

ジェラルディン・ダブリジョン
Géraldine DABRIGEON
ル・コルビュジエ・フィルミニ建築群　管理局長

g.dabrigeon@saint-etiennetourisme.com

+33 (0)4 77 61 61 03
+33 (0)6 83 71 65 19

はじめに

ガエル・ペルドリオ
Gaël PERDRIAU
サン・テティエンヌ市長
サン・テティエンヌ都市圏
共同体委員長

ありとあらゆることが語られ、書かれ、ときには人びとの議論の的となってきた天才、それがル・コルビュジエという20世紀に輝かしい足跡を残した稀代の建築家です。

もしかの人に非難されるようなところがあったのなら、それは彼の作品が、高い技術と独創性、洞察に溢れ、すっきりと簡素なまでの美しさを湛えているがゆえに、誰の目にもル・コルビュジエのものだとわかってしまうことです。

わたしたちは、ここ、フィルミニ市のフィルミニ＝ヴェールに、ル・コルビュジエが手がけたもっとも美しい建築群を有するという幸運に浴しています。ヨーロッパで第一位の、そして世界では、インドのチャンディーガルに次ぐ第二位の規模を誇るル・コルビュジエ建築群であり、その一部をなす文化会館は、ユネスコ世界遺産のリストに登録されています。

このように、イノベーションとデザインを指向するわたしたちの土地には、前世紀のもっとも重要でもっとも革新的な建造物が存在しています。

これこそ、わたしたちの町のイメージと名声を支える貴い切り札であり、このプレス資料を通してみなさんに詳しくご紹介するものであります。みなさんはここで、アーバンユートピア計画の歴史を繙かれることでしょう。

それと同時に、アニメーションを多用した解説、展覧会や関連イベントなどもご覧になられることでしょう。「20世紀建築遺産」に指定され、歴史的建造物として保護されているこの傑作建築群を目の当たりにすべく世界中から来られる大勢の皆さまに向けて多数の催しをお送りいたします。

みなさんは、今や、フィルミニのル・コルビュジエ建築群の鍵を、このたぐいまれな一連の建築作品群にアクセスするための鍵を、都市計画の近代的で人道的なヴィジョンを知るための鍵を手にしています。

どうぞ、フィルミニのル・コルビュジエ建築群においでください！

かつてなく高まる再評価の気運！

2016年7月10日から20日にかけて、イスタンブールで開催された第40回世界遺産委員会にて、文化遺産として推薦されていた「ル・コルビュジエの建築作品 ―近代建築運動への顕著な貢献―」の審議が行なわれました。これは、アルゼンチン、インド、スイス、ドイツ、日本、フランス、ベルギーの7か国が共同で推薦したものです。フランスが代表国となり、世界各地でル・コルビュジエが手がけた17におよぶ一連の建築作品を推しました。

世界遺産への登録は、すなわち、モダニズム運動の並外れた、そしてその影響力ゆえに基礎と位置づけられる建築作品に価値を与えることでした。なぜなら、この傑作こそが、近代建築を建築彫刻へと向かわせたものなのです。この推薦の独自性は、国境の枠を超えてある一つの文化財ではなく一連の作品を推していることであり、この建築群のすべてに共通する、他には見られない特徴を浮き彫りにしていることにありました。

フィルミニの文化会館は文化施設のプロトタイプであり、一連の建築作品の一部をなしています。ユネスコの世界遺産リストへ登録されたことで、その資格において、フィルミニで公開されているこの特別な文化財、わたしたちの土地のル・コルビュジエ作品が、国内外から人びとを引きよせる活気に溢れたファクターとして再評価されることでしょう。

マルク・プティ
Marc PETIT
フィルミニ市長
ル・コルビュジエ建築群
設立委員会委員長

ひと目でわかる建築群

ル・コルビュジエは、フィルミニに、フランスおよびヨーロッパで最大規模の建築群を作りあげることを思いつきました。フィルミニはサン・テティエンヌにほど近く、地方制度改革によって2016年に新たに生まれたオーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方のサン・テティエンヌ都市圏共同体に属する町です。ル・コルビュジエがフィルミニ＝ヴェール地区に作り上げたのは、唯一無二の建築群でした。モダニズム建築の巨匠が手がけた作品が、ヨーロッパでもっとも数多くここに集約されたのです。文化会館、集合住宅、競技場、教会によって、フィルミニは、ル・コルビュジエの構想したユートピアを実例で示しています。

フィルミニの文化会館は、近代建築への顕著な貢献を根拠として、フランス、スイス、ベルギー、ドイツ、インド、アルゼンチン、日本の各国でル・コルビュジエが手がけた他の16の建築作品とともに、2016年7月にユネスコの世界遺産リストに登録されました。

ル・コルビュジエのフィルミニ構想：暮らす、働く、再建する、循環させる

本建築群は、戦後のフィルミニ市長で復興・都市計画大臣であった**ユージェーヌ・クローディアス＝プティ**の熱意と、シャルル＝エドゥアール・ジャンヌレことル・コルビュジエの大志が一つに実を結んだものです。二人は共にこの町に新しい風を吹き込もうと画策し、1953年から近代建築の原理を実行に移しました。

ル・コルビュジエの計画を具現化、フィルミニに集結：

文化会館La Maison de la Culture、1961年から1965年にかけて建設。

競技場Le stade、1966年から1969年にかけて建設、フランスで歴史的建造物に指定された唯一の競技場。

ユニテ・ダビタションL'Unité d'Habitation、1967年竣工、1965年ル・コルビュジエ急逝後、遺言に従い**アンドレ・ヴォジャンスキー**によって完成。

教会L'église、2006年11月竣工。ル・コルビュジエが立てた建築案を**ジョゼ・ウーブルリ**が補佐。ウーブルリが施工計画を担い完成。

プールLa piscine、原案を生かす形でアンドレ・ヴォジャンスキーによって完成。

前衛的で革新的なフィルミニ＝ヴェール地区の開発は、1961年に都市計画賞のグランプリを獲得します。ル・コルビュジエが着想・提言し1933年に近代建築国際会議で採択された都市計画の理念「アテネ憲章」に従って造られたこの建築群は、陽光が降り注ぎ、空間が広がり、草木の緑が萌える環境で肉体と精神と知性の欲求に応えうる都市計画を推奨するものでした。

サン・テティエンヌ都市圏共同体とフィルミニ市はこの建築群の保全のために積極的な政策を打ち出しています。サン・テティエンヌ観光局が観光事業の活性化を保証しているからこそ、フィルミニの住人はもちろんのこと来訪者のだれもがこの規格外の建築遺産を心ゆくまで堪能することができるのです。

世界遺産リスト登録：推薦ストーリー

2016年7月10日から20日、トルコのイスタンブールで開催された第40回ユネスコ世界遺産会議において、ル・コルビュジエの建築作品群が世界遺産リストに加えられることになりました。その栄誉と世界的名声によって20世紀最高の建築家と讃えられるル・コルビュジエの国境を越えた一連の作品群は、4大陸、7か国、17の建造物で構成されています。

フィルミニの文化会館はこれら17の建造物の1つであり、ル・コルビュジエが世界中で手がけた数々の建築作品と照らしあわせば、その存在感の大きさは単なる偶然の産物ではないことは明らかです。アンドレ・マルローが推進した文化政策に組み込まれた文化会館は、ル・コルビュジエの生前の1965年、彼が息をひきとる数か月前に竣工しました。そのような逸話はさておき、文化会館は唯一、ル・コルビュジエの理論と夢を体現したものです。つまり、住宅の足もとにある文化施設と「アテネ憲章」でコルビュジエが提唱したような、そして、近代建築におけるフォルムの変革と空間構想に寄与するものです。文化会館はまた、新たな技法が可能にしたソリューションによって特徴づけられます。例えば、湾曲が驚異的な屋根は建築学上の金字塔であり、これは、2つの外壁の間にたわませたいくつものケーブルの上に屋根材を張ることで実現したものです。

世界遺産リストに登録されたフランス、スイス、ドイツ、ベルギー、インド、アルゼンチン、日本の他の16の建造物と同様に、フィルミニの文化会館は、1つのプロトタイプであり、他にはない経過をたどって建てられたものであり、建築的な創意工夫の一つの要素であり、それだけなく戦後の復興工事の一つの段階としてもその資格にふさわしいものです。17の建造物のそれぞれが、それ1つでも芸術作品として成立し、建築の領域おいて異例の成果を示しています。それは「高いリスク」に対する成果、つまり、設計条件の解釈であり、建築と技法のプランの上にこれらの建造物を成立させる実験構想のようなものです。

10年以上にわたって7か国が ── 一連の作品をまとめて推薦することが不可欠であると速やかに判断して── 共同で取り組んできた世界遺産リストへの申請作業は、これらの建築作品群の重要性についての認識を深める機会となりました。それは理論的、芸術的な文脈において、20世紀・21世紀建築の無視できない対象である作品群が、すべてそうあるべき姿で ── 建造物の現実的な物質性において── 直ちに世界遺産リストに記載されることで、協力各国にとっては、長期的に保全される最良の保証になるのです。

世界遺産リストへの登録は、サン・テティエンヌ都市圏共同体という地方レベルのみならず、国家レベル、国際レベルでサン・テティエンヌに人びとを引き寄せられる大きな賭けでした。それはまた、フィルミニの文化会館にとって、国連が設立した国際的ネットワークの一員として認識され、すでにユネスコ創造都市ネットワーク（デザイン部門）のメンバーであるサン・テティエンヌ市と同じ資格を獲得することでした。

「ル・コルビュジエの作品は我々の近代性の鍵を握っている。彼が手がけたすべてが、何世代にもわたって感動を呼び起こす源泉であり続け、他にとって代わるものがない学びの対象であり続ける。彼の多様性に富む作品は、それが建てられている場所で守られていくべきである」

アルヴァロ・シザ、建築家
ポルトにて、2011年4月

Organisation des Nations Unies pour l'éducation, la science et la culture

L'Œuvre architecturale de Le Corbusier, une contribution exceptionnelle au Mouvement Moderne inscrite sur la Liste du patrimoine mondial en 2016

世界遺産に登録された 17 の ル・コルビュジエ建築

- 1923年　**ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸 Maisons La Roche et Jeanneret**、パリ、イル＝ド＝フランス地方（フランス）
- 1923年　**レマン湖畔の小さな家 Petite villa au bord du lac Léman**、コルソー（スイス）
- 1924年　**ペサックの集合住宅 Cité Frugès**、ペサック、アキテーヌ＝リムーザン＝ポワトゥー＝シャラント（フランス）
- 1926年　**ギエット邸 Maison Guiette**、アントワープ（ベルギー）
- 1927年　**ヴァイセンホーフ・ジードルングの住宅 Maisons de la Weissenhof-Siedlung**、シュトゥットガルト、バーデン＝ヴュルテンベルク州（ドイツ）
- 1928年　**サヴォワ邸 Villa Savoye et loge du jardinier**、ポワシー、イル＝ド＝フランス地方（フランス）
- 1930年　**イムーブル・クラルテ Immeuble Clarté**、ジュネーヴ（スイス）
- 1931年　**ナンジェセール・エ・コリ通りのアパート Immeuble locatif à la Porte Molitor**、ブローニュ＝ビヤンクール、イル＝ド＝フランス地方（フランス）
- 1945年　**ユニテ・ダビタシオン Unité d'habitation**、マルセイユ、プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール（フランス）
- 1946年　**サン＝ディエ工場 Manufacture à Saint-Dié**、サン＝ディエ＝デ＝ヴォージュ、アルザス＝シャンパーニュ＝アルデンヌ＝ロレーヌ地方（フランス）
- 1949年　**クルチェット邸 Maison du Docteur Curutche**、ラ・プラタ、ブエノスアイレス州（アルゼンチン）
- 1950年　**ロンシャンの礼拝堂 Chapelle Notre-Dame-du-Haut**、ロンシャン、ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地方（フランス）
- 1951年　**カップ・マルタンの小屋 Cabanon de Le Corbusier**、ロクブリュンヌ＝カップ＝マルタン、プロヴァンス＝アルプ＝コート・ダジュール（フランス）
- 1952年　**キャピトル・コンプレックス Complexe du Capitole**、チャンディーガル、パンジャーブ州（インド）
- 1953年　**ラ・トゥーレットの修道 Couvent Sainte-Marie-de-la-Tourette**、エヴー、オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地方（フランス）
- 1955年　**国立西洋美術館 Musée National des Beaux-Arts de l'Occident**、台東区、東京都（日本）
- 1965年　**文化会館 Maison de la Culture de Firminy**、フィルミニ、オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ（フランス）

フィルミニのル・コルビュジエ建築群：**欧州最大規模のル・コルビュジエ建築**

ヨーロッパで第一位、世界ではチャンディーガル（インド）につぐ第二位の建築群

フィルミニのル・コルビュジエ建築群は、比類のない建築の原理が示された実例として無視できないものであり、このアートを建築の近代性の文脈に組みこむものです。建築群はまた、ル・コルビュジエの思想の重要なエレメントの一つ ── 住人たちが、文化活動を楽しみ、スポーツに親しみ、精神的生活を送ることができる空間 ─を具現化しました。ユージェーヌ・クローディアス＝プティは、この空間を「肉体と精神のレクレーションセンター」と名付けています。

ル・コルビュジエによる建築群の円熟したプランの実現は、1965年の彼の死後、**アンドレ・ヴォジャンスキー、ジョゼ・ウーブルリ、フェルナン・ガルディアン**という3人の建築家の介入なしにかないませんでした。モダニズム建築家ル・コルビュジエの工房で修行した3人は、忠実に作品に仕上げて、ル・コルビュジエが愛した「輝く都市」に命を吹き込むのです。2006年に完成を見たこの建築群は、現在、約2万人の住人に利用されています。

工期
1661-1965年

歴史的建造物指定
1984年

幅112m

ル・コルビュジエ存命中に
フィルミニで完成させた
唯一の建造物

世界遺産リスト登録
2016年7月

文化会館
LA MAISON DE LA CULTURE

文化と学術の真の殿堂である文化会館は、ル・コルビュジエがフィルミニで手がけた最初の建造物です。1984年に歴史的建造物に指定され、2016年7月16日にモダニズム建築の象徴としてユネスコ世界遺産リストに登録されました。

「文化的な活動の成果というのは、本来的に、すべての人にとっての財産、そして我々を映す鏡であり、個々人がそこに自身の豊かさを見出し、自らを省みることが重要である」

アンドレ・マルロー、フランス初の文化会館開館時の演説より抜粋、ルアーヴルにて、1961年

建設の資金は、1961年からフランス各地で始まった文化会館の創設について定めたマルロー法の恩恵を受けました。フィルミニの文化会館の計画は、民間教育の歴史に残る運動と文化的事業の地方分散化に関係しており、ル・コルビュジエが住宅の足もとにあるものと「アテネ憲章」で提唱したような文化施設のプロトタイプを示しています。

1965年5月21日、ル・コルビュジエの存命中に竣工し、1966年に「文化と青少年の家 Maison de la Culture et de la Jeunesse」の名称で開館しました。

文化会館は、採石場跡のむき出しの岩の上に造られた張り出し屋根のある競技場と、建築群において相関をなす位置に立っています。傾斜のついたファサードの一面は、競技場の階段席の傾斜と向かい合い呼応しています。

カラフルな立ち上がりとガラスのはまった開口部の組み合わせがリズミカルな ── ル・コルビュジエの協力者である**ヤニス・クセナキス**の設計による ── 文化会館は、湾曲した屋根の構造が目を引きます。

内部はシアタールーム、図書室、オーディトリアム、アートルーム、バースペースなどに空間が分けられています。内部で行なわれるすべてのアクティビティは、南の切妻壁に施されたコンクリーフのレリーフ画の中に描かれています。

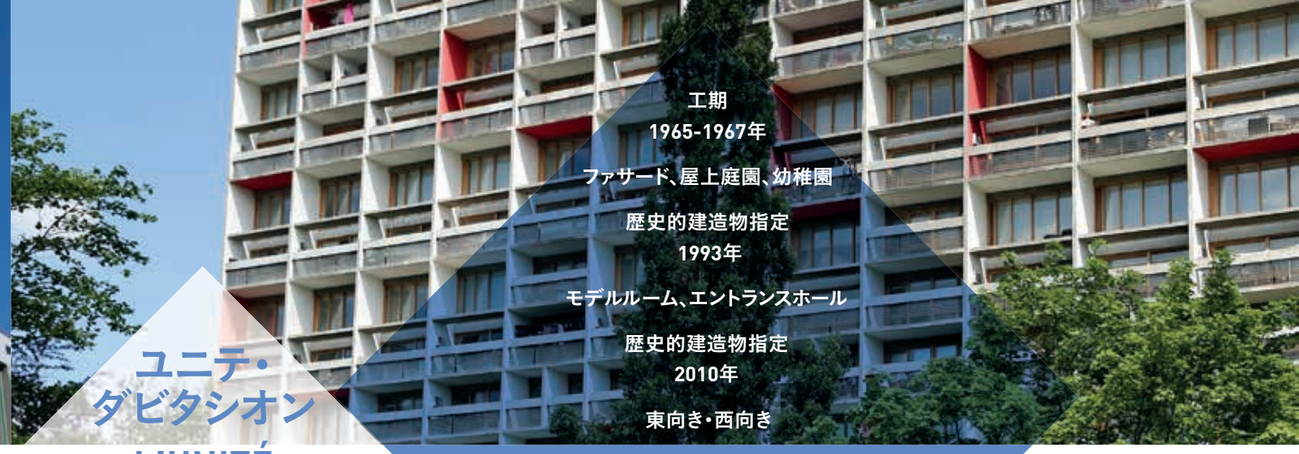
調度類や備品の創作、内装の整備はインテリア専門の建築家**ピエール・ガリッシュ**に委ねられ、彼によってすべてこの場所のためだけに手がけられました。ユージェーヌ・クローディアス＝プティに任命されてフィルミニにやってきたガリッシュの仕事は、初代館長のジョルジュ・ガルビーによって指揮がとられました。文化会館の調度類は、ル・コルビュジエの機能へのこだわりと建築様式を反映しています。この建物は人びとを迎え入れ、ワークショップ、研究、会談などの場として活用されます。そこで、デスク、棚、長椅子、図書閲覧用のテーブル、視聴覚イベント用の調度、照明などの調度類があつらえられ、現在もこれらを見ることができます。

当初の構想通り今もなお活気あふれる文化会館は、フィルミニ市の文化事業を保護する場としてさまざまな公演や文化イベントを行ない、多目的スペースとして活用されるル・コビュジエ建築群の入り口です。

建物の修繕

2009年から2013年にかけて文化会館の修繕工事が行なうに際し、フィルミニ市はローヌ＝アルプ地方文化政策局とル・コルビュジエ財団とともに以下2点について合意しました。

- 本建造物および事業目的を重んじ大胆なテクノロジーの導入を行う
- 文化会館が地方レベルでの文化の創造と伝達の場として市民の要望に応えるべく、会館設備の適応に不可欠な法の改正を認め、設備の存続を保証する



工期
1965-1967年

ファサード、屋上庭園、幼稚園

歴史的建造物指定
1993年

モデルルーム、エントランスホール

歴史的建造物指定
2010年

東向き・西向き

6つのタイプのアパルトマン

130m幅の垂直都市

414戸に1500人収容（当初）

幼稚園

野外ステージ付き
屋上庭園

ユニテ・ダビタシオン
L'UNITÉ D'HABITATION

「今日の建築は住宅を対象にしている。それは標準的でふつうのひとたちのための平凡なふつうの住宅である。大邸宅ではない。これぞ時代のサインである」

ル・コルビュジエ、『建築をめざして』1923年

ル・コルビュジエのユニテ・ダビタシオンは新しい空間構成に基づいており、イタリア・フィレンツェにほど近いガルッツォの一軒家をモデルに、集合住宅と戸建ての長所を結びつけました。それぞれの空間は、現代人のニーズに適合するように作られており、調度類は機能性に集約されて一切の無駄が省かれました。

「住宅は住むための機械である」という自身の格言にならい、ル・コルビュジエはフランス国内外5つのユニテ・ダビタシオンを考案しました（マルセイユ、ルゼ・レ・ナント、ブリエ・アン・フォレ、ベルリン、フィルミニ）。フィルミニのユニテ・ダビタシオンは最後に建てられたものです。それはユージェーヌ・クローディアス＝プティが考えた都市計画の第二次案がもたらした果実でした。第二次案には3棟のユニテ・ダビタシオンの建設が予定されていましたが、それが実現することはありませんでした。1965年5月21日、これが最後となるフィルミニの訪問でル・コルビュジエは文化会館の竣工に立ち会い、その機会を利用してユニテ・ダビタシオンの礎石を置きました。屋内道路「プルミエール・リュー« première rue »」にあるモデルルームは保存されており、ピエール・ガリッシュによって、ル・コルビュジエの視点を忠実に再現させた備品、調度類が整えられています。

今日、見学コースの欠かせないスポットとなっているモデルルームは、当時、未来の入居者たちにとって、光に包まれた新しい空間に彼ら自身の姿を投影させるものでした。ピエール・ガリッシュは、調度類を手がけるにあたって、ル・コルビュジエの思考にならって素材、色、光を探求しました。展示されている調度類は、デスク、椅子、テーブル、キッチンキャビネット、照明器具などです。

部屋の向きは陽光を最大限に取り込めるように考慮されており、ガラス張りの開口部からは自然が望めます。フィルミニのユニテ・ダビタシオンは、**モデュロール**に基づく計算と詳細な計測が形をなしたものであり、幅131m、奥行21m、高さ57m、20階建ての建物です。414戸の住宅、ワンルームから6部屋タイプまで6種類のアパルトマンを備えています。

ル・コルビュジエは、この建物を、住宅のみならず3000平米の幼稚園や屋上庭園（広場）にステージを備えた真の集落と考えました。幼稚園（調度類ごと保存）は30年にわたって機能したのち1998年に閉校しました。ル・コルビュジエが手がけた3つの幼稚園の中で、ここフィルミニのものはもっとも大きく、園児の受入れ数もおそらく最大でした。

現在、幼稚園の擁壁の1つは、ジャン・モネ大学の文化財学科が所有しています。フィルミニは、サン＝テティエンンヌを拠点とする同大学の6番目のキャンパスにあたり、毎年100人程度の学生を受け入れています。

いくつかのアパルトマンは統合され、より大きな空間を求める声に応えて共有スペースとして開かれています。

また、修繕と改修の壮大な計画によって20年間閉鎖されていた北側1/3のユニテが再び利用できるようになりました。南側については、フィルミニ公共住宅オフィスの所有となっています。現在、約1000人がユニテ・ダビタシオンで生活しています。

サン=ピエール教会 L'ÉGLISE SAINT-PIERRE DE FIRMINY

工期
1973-2006年
(ル・コルビュジエの建築計画に従って)

歴史的建造物指定
2012年

上部を切り取った変形ピラミッド

教会頂点の高さ
33m

低層階に展示や演奏のためのスペース

特徴:ル・コルビュジエとその助手にして遺言執行人であるジョゼ・ウーブルリによる共同建築

2006年11月25日竣工。ル・コルビュジエの死後40年余りを経て、彼が晩年に構想した一つである風変わりな建造物に命が吹き込まれました。

ロンシャンの礼拝堂(1955年)、ラ・トゥーレット修道院(1959年)についで、ル・コルビュジエにとって3つ目となる宗教建築です。2012年に歴史的建造物指定を受けた教会は、「20世紀建築遺産」に認定されています。

最初の建築案が着想されたのは1961年のことです。1965年に息をひきとったとき、ル・コルビュジエはごく簡単な雛型を起こしていたのみでした。施工のプロジェクトの練り上げと工事を委ねられたジョゼ=ウーブルリは、かつてル・コルビュジエの工房で設計図を引き、計画の補佐をしていました。1973年に着工するものの1978年に一旦停止し、サン・テティエンヌ都市圏共同体が施主となる2004年まで休工していました。教会の工事は2006年にようやく終了し、こうしてル・コルビュジエが構想した建築群が完成したのです。

ル・コルビュジエが思い描いた真の「建築プロムナード」は、ある特定の見晴らしの良い場所に立つことではなく、動き回ることを奨励しています。そのようなわけで採用したのがスロープであり、これが建築物に数え切れない眺望を生み出すのです。

原案にいくつかの変更を盛り込んだとはいえ、ジョゼ・ウーブルリは終始ル・コルビュジエのエスプリに寄り添って工事を行ないました。ただし、下層階にはついては、今日、ル・コルビュジエ建築群の解説展示のために作り変えられたスペースが設けられています。教会はまた、セミナー会場や劇場としても活用されています。

「わたしは素材、フォルム、計画と闘っている。(中略)われわれのこの作品ゆえに、わたしはかつてなくつなぎとめられていると感じている……。今や、なによりも大きな精神の悦びのために、この工事を開始すること以外は考えられない」

ル・コルビュジエからタルディ司祭に宛てた手紙、1965年1月28日付

競技場 LE STADE

ル・コルビュジエによる
フランスで唯一の競技場

工期
1966-1969年

歴史的建造物指定
1984年

修復中

4180席、500人収容

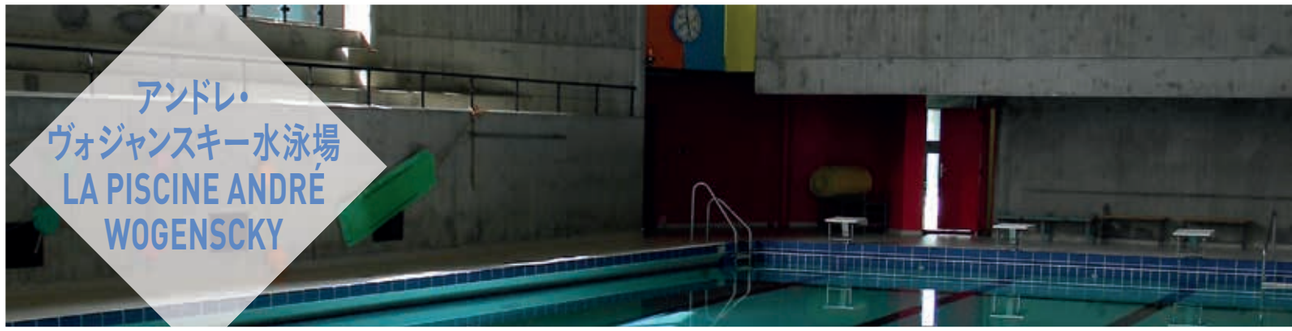
採石場跡に建設

ル・コルビュジエにとって、肉体の鍛錬は精神の修練と同じく欠くことができないものでした。それゆえに、彼は文化会館に向かい合う場所に競技場を作ることを思いついたのです。

このアイディアに対して、ル・コルビュジエは地形をうまく活用することにしました。採石場跡に競技場を作ることで、すり鉢状にへこんだ土地にサッカーグラウンドと400mの陸上競技用トラック、そして階段式の観覧席をゆったりと確保することができたのです。総コンクリート造りがル・コルビュジエの建築にふさわしく、主のような威厳で佇む観覧席の屋根付き部分は、奥行き16m、長さ32mの鉄筋コンクリートが張り出して技術力を誇らしげに見せつけています。競技場にはル・コルビュジエがお気に入り屋上テラス「観客たちの大通り」があり、そこを通って上から斜面に沿って観覧席へとおりられるようになっています。

競技場は現役の文化財として学校行事、各種スポーツ団体などに頻繁に利用され、大規模な行事が催されています。

フィルミニ市長から1953年に要請され、ル・コルビュジエによって1954年から構想された競技場は、建築家の立てた施工計画にしたがって1966年から1969年にかけて着手されます。1965年にル・コルビュジエが亡くなると、ともにル・コルビュジエの協力者であったアンドレ・ヴォジャンスキーとフェルディナン・ガルディアンがプロジェクトを引き継いで完成させました。工事現場はル・コルビュジエが当初思い描いた通りの姿になったことでしょう。2014年からは、フィルミニ市によって修繕工事が行なわれています。



アンドレ・ヴォジャンスキー水泳場 LA PISCINE ANDRÉ WOGENSCKY

ル・コルビュジエによる都市計画の全体案に盛り込まれてはいたものの、プールの雛型は、師たるル・コルビュジエのエスプリをもってアンドレ・ヴォジャンスキーが1966年に手がけました。1969年に施工を開始し、公式にオープンしたのは1971年の3月5日です。2004年から2006年にかけて修繕工事が行なわれました。

ガラスとコンクリートを主な建材に用いるアイディアにより、南、東、西のファサードには波動式ガラス壁面、補剛材として打放しコンクリートが採用されています。ガラス張りのファサードは、仕上がりに統一感を持たせ、文化会館のガラス張りのファサードと調和を生み出すことへのアンドレ・ヴォジャンスキーのこだわりです。ヴォジャンスキーは、自分の師の作品に関連した「静かな」建物にしたかったのだと、のちにしばしば発言しています。

2005年から歴史的建造物の暫定リストに掲載されており、今もなお多くの利用者を抱えるユニークなプールです。アンドレ・ヴォジャンスキーは、サン・テティエンヌのクレールヴィーヴル若年労働者寮を手がけたことでも知られています。(p.13参照)

フィルミニ＝ヴェール地区、**アーバンユートピア計画の歴史**

第二次世界大戦が終わると、フランス全土で復興が進み、経済はふたたび勢いを取り戻して「栄光の30年」と呼ばれる時期を迎えます。そのような状況において、当時の市長に芽生えたのが「フィルミニ＝ヴェール（緑のフィルミニ）」構想です。

「太陽の下で町を作らなくてはならない、光を浴びて作らなくてはならない。町を取り巻く緑の中に作らなくてはならない。それこそがわたしたちの都市計画に必要なものである。誇りを持って築き上げること、それこそがわたしたちの建築に必要なものである。簡素に築き上げること、わたしたちは貧しいのだから」

ユージェーヌ・クローディアス＝プティ

ユージェーヌ・クローディアス＝プティが自治体の長を務めることになった1953年当時のフィルミニは、古くからある鉱山の町でした。町の主要産業は工業と製鉄で、人口の爆発的に増加に直面しており、住宅の衛生問題は町が抱える懸案事項の中心にありした。

プティは町の大規模な再開発に乗り出し、新しい地区「フィルミニ＝ヴェール」を整備します。都市計画マスタープランは、シャルル・デルファント、ジャン・クリング、アンドレ・シヴ、そしてマルセル・ルーというアーバニスト建築家のチームに委ねられました。

「アテネ憲章」（1933年）の理念に従って築かれた町は、陽光が降り注ぎ、空間が広がり、草木の緑が萌える環境で肉体、精神、知性の欲求に応える都市計画を推奨するものでした。

足りない部分を補うためにプティが友人ル・コルビュジエに助けを求めたのはごく自然なことでした。1955年、フィルミニ市議会は満場一致でル・コルビュジエを迎え入れることに賛成します。

プティがその都市計画の理論を形にしようと尽力した「フィルミニ＝ヴェール」は、都市拡張計画のモデルとして今なおその名を轟かせています。人道主義者の彼はル・コルビュジエの社会に対する見識とモダニズム運動の理論に打たれ、フィルミニ市、フィルミニ＝ヴェール地区の都市計画にそれらを活かしました。1965年8月27日にル・コルビュジエが急逝すると、弟子たちが後を継ぎました。

都市計画モデル

1961 年、フランスにおける都市計画賞グランプリを授与されたフィルミニ＝ヴェール地区は、当時の国家の都市計画モデルを体現しています。近代都市計画の宣言そのものです。フィルミニ＝ヴェール地区は、建築・遺産活用区域（AVAP）として、また、ル・コルビュジエが着想した建築物はすべて歴史的建造物として保護されています。その名目で、2000 年から補修工事が行なわれています。

革新とデザインの地における規格外な建築群

サン・テティエンヌ都市圏共同体は、公共政策の拡張と構想におけるデザインマネジメントを推進するフランスで最初の公共団体です。その中心都市たるサン・テティエンヌがユネスコ創造都市ネットワーク（デザイン部門）のメンバーであることから、同都市圏共同体は「ユーザー中心イノベーション」のヨーロッパ基準の地位を占めています。サン・テティエンヌ都市圏共同体は、ヨーロッパ・デザインマネジメント賞の「公共あるいは非営利組織」部門を授与されました。本賞の獲得は、フランスの公共団体によって雇われる世界中の改革活動のエキスパートたちにその名を知らしめるものです。

街角、広場、商店、学校あるいは公共の建物に、デザイナー、アーティスト、造形作家、アーバニストに建築家の姿があり、調査し、実験し、よりよく「町に暮らす」ことが提案されています。サン・テティエンヌは、都市改革の仲介役として、経済発展の原動力としてデザインを採用しています。サン・テティエンヌは、フランスの、革新的な、継続する、連帯するデザインの実験室のような地位を占めているのです。地区、学校、アソシエーション、出資企業による公共スペースでの参加型プロジェクトは、住民の生活環境を向上させています。

創造性豊かな町のネットワークは、町の文化、社会、経済を振興するものとしてユネスコに認められています。ユネスコは、創造の拠点、ノウハウの共有、さまざまな試みと能力の活用を奨励しています。2010年11月、サン・テティエンヌはユネスコの創造都市ネットワークに加盟を果たし、同ネットワークのデザイン部門ではフランスで初のメンバー都市となりました。クリエイティブ分野における技術革新・研究の中心施設であるシテ・デュ・デザインCité du designや、サン・テティエンヌ国際デザイン・ビエンナーレBiennale Internationale Designの実施などが評価されました。工業の近代性と結びついた豊かな歴史を持つ創造者と発明家の地、サン・テティエンヌは、イノベーションと工業に由来する推進力によってめまぐるしく変化しつづける町なのです。

ユネスコによる再評価でフィルミニの文化会館が世界遺産リストに登録されたことは、地方の文化の発展に関するサンテティエンヌ都市圏共同体の重要性を再確認するものであり、国内はもちろん、国際的なレベルで土地の魅力をより一層高めることに寄与します。

アンドレ・ヴォジャンスキーによるサン・テティエンヌのクレールヴィーヴル寮：独自性溢れる建造物。1962年から、かつてのクレールヴィーヴル若年労働者寮Foyer de jeunes Travailleurs Clairvivreこと現在のクレールヴィーヴル青少年住宅Habitats Jeunes Clairvivreは、若者のサン・テティエンヌ滞在の要望に応えています。サン・テティエンヌのクレ・ドゥ・ロック地区に位置する建物は、建築家アンドレ・ヴォジャンスキーの作品であり、20世紀の建築遺産とみなされています。2010年、この地区の再開発事業としてユースホステルの創設と、若年労働者寮の補修が行なわれました。「オーベルジュ・ドゥ・ジュネス・アンドレ・ヴォジャンスキー（アンドレ・ヴォジャンスキー・ユースホステル）協会」は、国際滞在センター「エティック・エタップ Ethic Etapes」グループに属するボランティア団体です。本ネットワークは以下のような理念を掲げています。すなわち、出会い、社会的経済・連帯経済、持続可能な発展、民間教育、交流、混成、市民権。これらが、非日常を約束する国際滞在センター「エティック・エタップ」の魅力です。モデルルームはヴォジャンスキーによって考案されたしつらえのまま保存されています。AJAWは、サン・テティエンヌ都市圏共同体観光局とシテ・デュ・デザインが提案する見学コース「デザイン巡りParcours Design」の中継地点として登録されています。

サン・テティエンヌの町と地方の旅の詳細情報：
サン・テティエンヌ観光会議局は、デザイン革新の地というサン・テティエンヌの位置づけに根ざして情報を提供しております。アクチュアリティやデザイン製品のショップについてなど、常時更新される情報スペースにビジターをお迎えできるよう日々熟慮を重ねています。

コンタクト：**サン・テティエンヌ観光会議局**
16 avenue de la Libération - 42000 Saint-Étienne
www.saint-etiennetourisme.com

プレス用素材

版権フリーの画像を用意しております。
（動画についてはお問い合わせください）

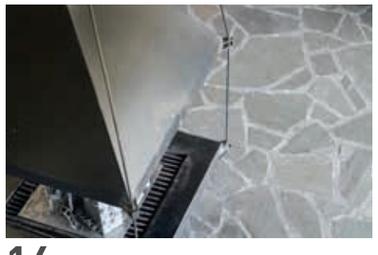
法的記載事項：

ル・コルビュジエ財団収蔵資料：
Fondation Le Corbusier, L'œuvre architecturale de Le Corbusier, une contribution exceptionnelle au mouvement moderne, candidature à l'inscription sur la Liste du patrimoine mondial, juin 2015
Portrait de Le Corbusier ©FLC – ADAGP

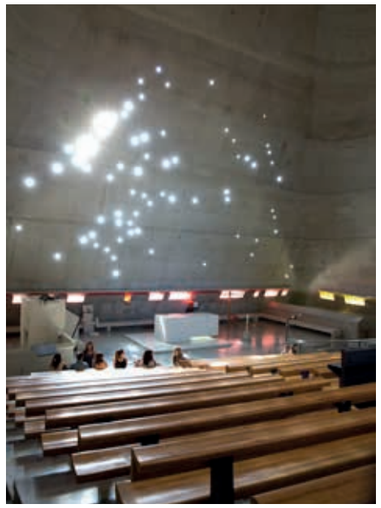
文化会館、競技場、ユニテ・ダビタシオン画像：
Saint Etienne Tourisme / Gabriele Croppi / Saint Etienne Métropole / Hubert Genouilhac © F.L.C/ ADAGP（2016）

サン=ピエール教会画像：
Etienne Métropole / Hubert Genouilhac
© Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant（1960-65）. Réalisation, José Oubrerie architecte（1970-2006）

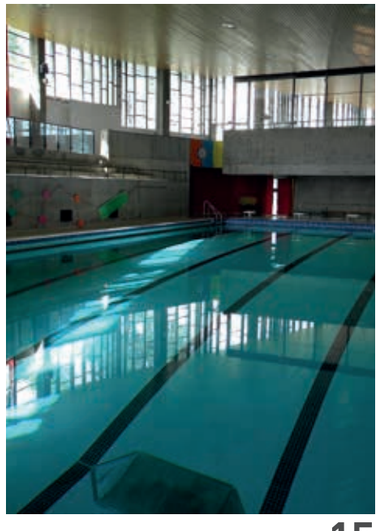
文化会館 MAISON DE LA CULTURE



サン=ピエール教会 L'ÉGLISE SAINT-PIERRE, FIRMINY-VERT



競技場、アンドレ・ヴォジャンスキー水泳場 LE STADE ET LA PISCINE ANDRÉ WOGENSCKY



ユニテ・ダビタシオン L'UNITÉ D'HABITATION

ハッシュタグ

#FIRMINYCORBUSIER

#LECORBUSIER

#UNESCORBUSIER

ル・コルビュジエ肖像と建築群鳥瞰写真 PORTRAIT DE LE CORBUSIER ET VUES AÉRIENNES

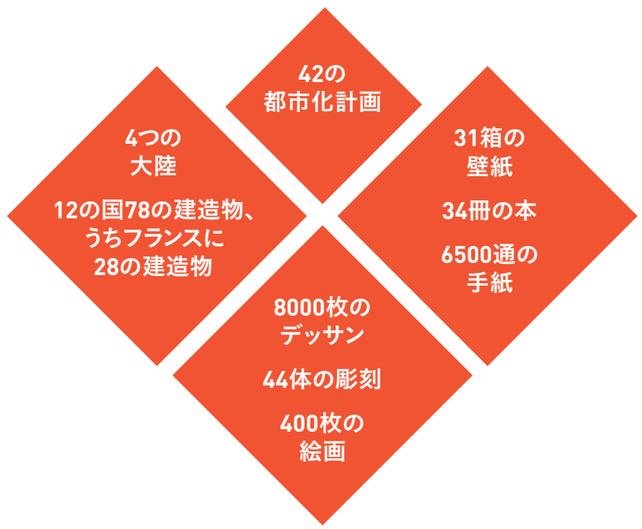
用語集／略歴

モデュロール MODULOR：
寸法を意味するフランス語「モデュール（モジュール）module」と黄金数を意味する「ノンブル・ドール nombre d'or」を組み合わせたル・コルビュジエによる造語で、黄金数とフィナボッチ数列に基づいて割り出された建築寸法のシステムのことです。なお、このシステムには1945年に特許が与えられています。

ル・コルビュジエはこの寸歩システム「モデュロール」を、体の各所の比率を測定することから編み出しました。すなわち、標準的な人体のプロポーションを知ることがユニテダビタティオンの居住スペースの構造物の比率を考える助けになっており、モデュロールは、ル・コルビュジエによれば、人間とその生命活動が行なわれる場で最高の快適さを約束するものなのです。

モデュロールは、フィルミニのユニテ・ダビタシオンの構想に役立てられています。この新しい単位で、ル・コルビュジエはメートル法を用いるよりもしっくりとくる寸法システムを考案したのです。人間の身体を拠り所にしているのですから当然のことです。

建築的プロムナード PROMENADE ARCHITECHTURALE：
このエレメントは、ル・コルビュジエにとって不可欠なものであり、人びとに移動を促すものでした。彼は、訪れる人が今いる場所の向こうに広がっている空間に想像力を巡らせるように促しました。それは光のコレグラフィーであり、途切れることなくカーブで結ばれた道筋を繰り返し歩くことで、絶え間なく移り変わる光景を体験できるのです。



ル・コルビュジエ LE CORBUSIER
建築家、アーバニストにして作家、理論家、デザイナー、画家、彫刻家であったシャルル＝エドゥアール・ジャヌレことル・コルビュジエは、フィルミニからチャンディーガル、ベルリンからサンパウロ、ロンシャンの礼拝堂からニューヨークの国際連合本部ビル、あるいは光の都市と呼ばれるマルセイユのユニテ・ダビタシオンに至るまで、世界中でその名を知られています。今日、ル・コルビュジエは、第一次世界大戦以降の近代建築の礎を築いた一人とみなされています。

ル・コルビュジエが定義した近代建築の5原則

ピロティ Les pilotis、建物の1階部分を歩行者に解放し、地上を行き交う人びとの動きを妨げずに間取りを確保するもの。ピロティを設けることの確固たる動機は美的秩序を生み出すことにある。「ピロティはかけがえのない建築要素であり、歩行者の視界を自由にするものである」

自由な平面 Le plan libre、鉄筋コンクリートの柱を多用することで平面を仕切るものがなくなり、構造壁に縛られない自由な間取りが可能。

水平連続窓 La fenêtre en longueur、外気と光をたっぷりと取り入れることができる。

自由なファサード（立面）La façade libre、構造壁を用いないことで、建築家が自由な意匠を凝らすことができる。「これからの壁は光に対して開かれるだろう」

屋上庭園 Le toit-terrasse、外気と光を感じる自由な空間。ピロティによって解放された地上空間と、露台に開かれた庭園によって、結果的に、建築前よりも多くの自由な土地を獲得することになる。

20世紀初頭に起きたモダニズム建築運動は、ミニマルな装飾、純粋幾何学的な形状、構造の合理性によって特徴づけられ、これらは新たな技術と素材なしにはありえないものでした。

また、シンプルな外観については、構造と厳格さが建築上の選択肢を支配しており、それは、幸福や健やかさを追求すべく、ひとを中心に据えたユートピアという発想の上に成立するものでした。

ル・コルビュジエの活動は、町とその変革、そして建築史の絶え間ない分析に基づくものでした。その理論は著述によって広められ、ル・コルビュジエは世間から一目置かれる革新者となりました、その活動は政治にもかかわるのでした、ル・コルビュジエの目指したもの、それは、より多くの為政者に、建築は都市の抱える問題に答えを示すものだという彼の理論の重要性とその確かさを認めさせることでした。

略年表：

1887年
10月6日、ラ＝ショー＝ドゥ＝フォン（スイス）に生まれる。

1908-1909年
ペレ兄弟の事務所に勤務し、鉄筋コンクリートの技術について学ぶ。

1917年
画家アメデ・オザンファンとともにピュリスム（純粋主義）運動を展開

1920年
前衛雑誌「レスプリ・ヌーヴォー L'Esprit Nouveau」を創刊

1923年
モダニズム建築のバイブル的な著書『建築をめざして Vers une architecture』上梓

1931年
ポワシーのサヴォワ邸完成

1945年
人体寸法から建築の基準となる尺度、モデュロールを考案

1952年
マルセイユのユニテ・ダビタシオ完成

1954年
初めてフィルミニの地を訪ねる

1955年
ロンシャンの礼拝堂完成

1960年
エヴー＝シュル＝ラルブレルのラ・トゥーレット修道院完成

1955-1965年
パンジャーブ（インド）の州都チャンディーガルの建築群を手がける

1961-1965年
フィルミニの文化会館を手がける

1965年5月21日
ル・コルビュジエがフィルミニの建設現場を訪ねた最後の機会。文化会館竣工。ユニテ・ダビタシオンの礎石を置く。

1965年
8月27日、ロクブリュヌ＝カップ＝マルタンで息をひきとる

1966-1969年
フィルミニの競技場建設

1968年
作品の保存と認知と伝播を目的にル・コルビュジエ財団がパリで設立される。

1973-2006年
助手だったジョゼ・ウーブルリが引き継ぎ、工期を二度に分けたサン＝ピエール教会を建築。

ル・コルビュジエの協力者、仲間たち

アンドレ・ヴォジャンスキー
ANDRÉ WOGENSCKY（1916-2004）

ボザール（国立高等美術学校）で学んだのち、1936年、パリのセーヴル通り35番地にあったル・コルビュジエの事務所に設計士として雇われる。

1944年に建築家協会に入会が認められ、1945年にル・コルビュジエの助手に任命される。1955年に退所して自らの建築事務所を開設するのに先立って、1949年、フランスおよびヨーロッパ各地で、ル・コルビュジエの建築構想についての講演会を行なう。1965年、フィルミニの建築作品群を完成させるべくル・コルビュジエの遺言執行人に指名された。

委託された工事：

- **文化会館の内装**、ピエール・ガリッシュと共に（1965-1966）
- **競技場の観覧席**（1966-1969）
- **プールの建設**（1969-1971）
- ル・コルビュジエが礎石を置いた**ユニテ・ダビタシオンの整備**（1965-1967）
- **サン・テティエンヌのクレールヴィーヴル若年労働者寮の建設**（1962-1963）

ヴォジャンスキーは、パリのナンジェッセコリ通りにあるかつてのル・コルビュジエのアパルトマンに1973年に事務所を構えた。2004年逝去。

ユージェーヌ・クローディアス＝プティ
EUGÈNE CLAUDIUS-PETIT（1907-1989）

1907年5月22日、アンジェ生まれ。家具職人としての教育を受けたものの、パリ（フォーブール・サン＝タントワーヌ）に出た後にリヨンで絵画教師となる。リヨンで加わったレンジスタンスの活動によってアルジェに導かれる。シャルル・ドゴールの側近として、1948年から1952年に復興都市計画大臣に就任、ロワール県下院議員にもたびたび回当選を果たし、1953年から1971年フィルミニ市の市長を務めた。

ジョゼ・ウーブルリ
JOSÉ OUBRERIE（1932-）

フランスの建築家であり、ル・コルビュジエのアシスタントとして下積みを経てル・コルビュジエ事務所の協力者となり、ついでワイルド＝ウーブルリ工房を構えて精力的に活躍する。同時に、アメリカ、コロンバスのオハイオ大学オースティンノウルトン建築学校で教鞭をとった。

ジョゼ・ウーブルリは、1965年以前にル・コルビュジエのアシスタントとしてプロジェクトにかかわったのに続いてフィルミニ＝ヴェールのサン＝ピエール教会を完成させた。ウーブルリは1962年に教会の設計図と雛型を手がけている。

ピエール・ガリッシュ
PIERRE GUARICHE（1926-1995）

フランスのプロダクトデザイナー、パリの国立高等装飾美術学校を1949年に修了。マルセル・ガスコワンの工房で働き始め、装飾芸術家展と家庭用器具展で最初の作品を発表する。1953年、Steiner社の伝説的な椅子「トノー」のプラスチックモデルを着想し、続いて、フィルミニでも見ることができる整形合板モデルを手がけた。1954年、ジョゼ＝アンドレ・モットとミシェル・モルティエとともに造形研究所を設立。1957年、ベルギーの家具メーカー Meurop社のアートディレクターに就任。ベルギー、トゥールネの国立建築学校、パリの国立高等装飾美術学校の教員として豊富な知識を学生に伝授した。

ヤニス・クセナキス
IANNIS XENAKIS（1922-2001）

建築技師であるヤニス・クセナキスは作曲家でもあった。1947年にフランスにやってくると、ル・コルビュジエの事務所にエンジニアとして入所。教養溢れるクセナキスは、音楽と数学を結びつけた確率音楽と名付けられた作曲法を唱えた。これに関連してクセナキスが生み出した「波動面 « pans ondulatoires »」と呼ばれるフィルミニの文化会館の窓格子は、まさに音楽と建築の融合である。

ご利用案内
プレス連絡先

営業時間

年中無休
10:00〜12:30、13:30〜18:00
（但し9月〜6月は火曜休館）

アクセス

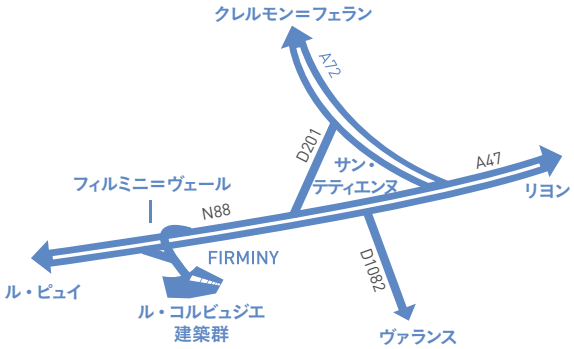
列車：SNCF（国鉄）フィルミニFirminy駅
［15分］

バス：1系統「フィルミニ／サン・テティエンヌ」ligne 1, Firminy/Saint-Étienne、停留所「ル・コルビュジエ教会」« église Le Corbusier »
［30分］

車：国道88号N88、リヨン方面から32番出口Sortie32、ル・ピュイ方面から33番出口Sortie33
フィルミニ＝ヴェールFirminy-Vert
駐車場2箇所あり

所在地：
Boulevard Périphérique du Stade 42 700 Firminy

GPSコード：
緯度：45.38239414073881
経度：4.288389269836443



お問い合わせ／ご予約
+33 (0) 4 77 61 08 72
www.sitelecorbusier.com
information@sitelecorbusier.com

料金

自由見学：
通常：6.50ユーロ
割引：5.50ユーロ
7歳以下無料

ガイド付き見学：
通常：9.50〜17.00ユーロ
割引：8.00〜14.50ユーロ
7歳以下無料

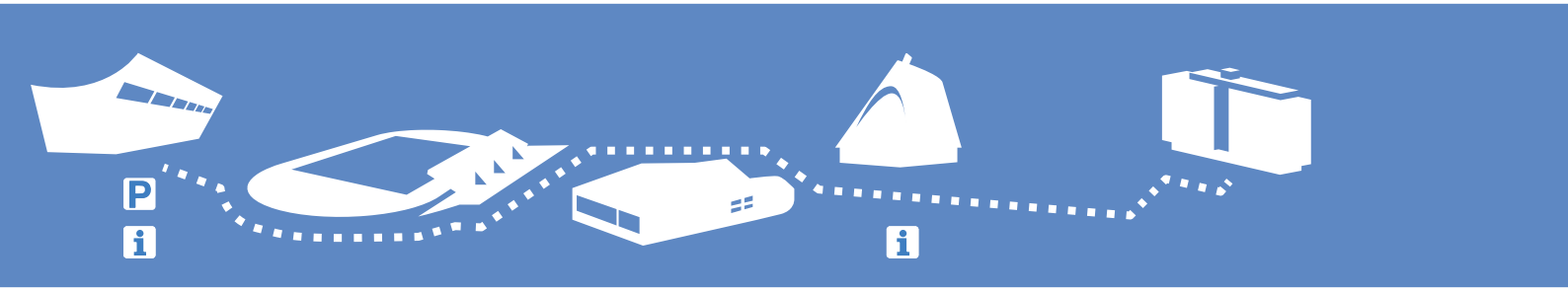
4つの施設の見学可能／
建築的プロムナードに解説板あり／
時期により企画展あり。
団体のフランス語または英語の
ガイド付き見学は、
事前にご予約ください。

プレス担当

ジェラルディン・ダブリジョン
Géraldine DABRIGEON

ル・コルビュジエ・フィルミニ建築群　管理局長

g.dabrigeon@saint-etiennetourisme.com

+33(0)4 77 61 61 03
+33(0)6 83 71 65 19

旅の詳細情報：www.saint-etiennetourisme.com